

滋賀県介護の魅力等発信部会 (令和6年度 第3回)

- 日 時 令和7年3月25日(火)10:00～12:00
○場 所 滋賀県庁新館1-B 会議室 (オンライン会議併用)
○出席委員 河岸委員(部会長)、鈴木委員(副部会長)、東委員、安原委員、後藤委員、
中村委員、築地委員、山委員、山岡委員
○オブザーバー 大津市 井上氏、草津市 木村氏、長浜市 田中氏(代理 橋本氏)

○議 題

- (1) 中学校での出前講座の実施について
- (2) 令和6年度介護のしごと魅力発信事業について
- (3) 次年度の体制について

1. 議題(1) 中学校での出前講座の実施について

※資料1により事務局から説明

【委員】

○中学校での出前講座は、中学校側からなかなか手が挙がらないという可能性があるのですが、中心的な人材を、今後の事務局に担ってもらうことになり、苦労があると思うが、できる限りアピールする策を持つのが重要と思っている。内々で第3期アンバサダーに2名ほど入りたいという大津市の若い女性がいます。個人的に、推薦したいと思っている。若い方をどんどん増やして、中学校の出前講座等に出向き、グループワーク等をしていくことが重要と思っている。

【部会長】

○P.1 介護サービス事業者協議会連合会(介サ連)と協議の場を持つとのことだが、次年度、介サ連の委託事業となるのか。

【事務局】

- 各市町の方から話が行くことを想定している。委託ではない。大津市みたいに社協と協働しているところもあるので、介サ連に限る訳ではない。
- 第1候補として挙げているので、会長とも話し、介サ連の方にも少し伝えてもらっている。

【部会長】

○中学校出前講座については介サ連が、メインになって動かしていくのか。

【事務局】

○まず市町を動かしている。教育委員会のこともあり、市町が資料1を見て動いて、介サ連の方に声をかける想定で作っている。

【部会長】

○窓口が介サ連になっていくような今後の方向性と思っているのか。

【事務局】

○介護業界団体から、出前講座をどうしてこういう話になると、具体的には考えられていないところがある。先ほど、業界からもしっかりと、との話があったので、今後は魅力発信の中で考えていくことになるのか。

【委員】

○中学校から依頼や、市町から相談があった時、誰かが中心的に動かないといけない。どこが事務局を持つかが大事と思う。

【部会長】

○きっちりと作っておかないと、ふわっとしたまま進むと、まとまっていけない。

【委員】

○12月の介サ連役員会で流れがあるということは伝えている。自治体から依頼を受けて、その先を担っていくというところなので、事務局というのがいいかという、多分違うと思う。そうなったとき、滋賀県老人福祉施設協議会(滋老協)が次年度の魅力発信事業の事務局を担うこととの兼ね合いで、少し整理しないとあやふやになるか。アンバサダーの管理は滋老協事務局に来るかなと思っている。選択肢がいくつか自治体に示され、1つが介サ連で、もう1つがアンバサダーかと思う。その辺、整理してほしい。

【部会長】

○中学校が出前講座を頼みたいとなった時に、どこに依頼していくのか、市町なのか介サ連なのか滋老協なのか、明確にしておかないと次年度スタートなのであまり時間がない。

【事務局】

○色々なやり方があると思うが、市町を動かすのがスムーズかなと思っている。教育委員会の「におねっと」に、例えば介サ連で講師をする旨を入れたりすると、わかりやすいと思う。そのあたり、今後、しがけあの方とも詰めていかないといけない。

【部会長】

○どこで、協議をするか、その場はどこにあるか。この会議なのか、次年度の魅力発信事業としてやっていくのか。その辺も方向性を示しておかないと進まないと思う。

【事務局】

○今考えている協議体としては、魅力発信の補助事業の中の企画会議になるので、そこを中心とし、介サ連と必要があれば、また個別に詰めていき、最終的には人材確保協議会の方で、流れを承認して貰う形である。

【委員】

○コロナの時もそうだったが、みんなが「手伝う」「やる」という意思はあるが、情報を一本化しておかないと本当に何か困った時に、どこに言えばいいのかわからない、言ったが結局動けないという事が、今までの色々な取組で見受けられた。事業所・連合協議会等って書いてあるので、どこの部分でもいいとは思いますが魅力発信を来年度担っていただく滋老協がある程度情報の一本化をして貰い、協議会や老健協等、いろんなところがそこに協力していくという体制の方がいいかなと思う。

○逆に言うと、市町を動かすことは大事なので、市町から、滋老協の方に依頼がある方がいいのかなと思う。介サ連に頼むと市町によって温度差があり動きが全然違うので、全てを滋老協に相談すれば一本化できると思う。そうならないとバラバラな感じになると思う。

○大津市の中学校から依頼があったからって、大津市在住の講師に行ってもらう必要はない。それぞれに見合

った講師に行ってもらったらいいと思う。できれば県の中で考えた方がいいと思う。滋老協の方には、負担になるかもしれないがアンバサダーも抱えてるところもあるので一番わかりやすいのかなと思った。

【委員】

○各市町から実際の派遣段階で滋老協がどこまで関わるか、そこが難しいと思う。最終、派遣実績等を集約する立場として滋老協はあっていいのかなと思う。下手に事務局が間に入って、受け手としては介護サービス事業者協議会だったりもするので、それを全て1回ワンクッション入る意味があるかどうか、実績を集約するのが大事だと思う。

【部会長】

○今年度末に圏域の介護サービス事業者協議会(事業者協議会)で出前講座を実際にしてるところとかもある。湖南市はしている。市社協から湖南市の介護サービス事業者協議会の方に相談があり、過去から高校等で出前講座が動いてたので、中学校も今年度、熱量のある先生がいて、その先生からの相談で事業者協議会が動くということは2回ぐらいやってと思う。出来上がった流れの中にはありそうな気もするし、ちょっと整理が必要なのかなという気はする。彦根の方はどうか。

【副部会長】

○彦根は何もない。

【部会長】

○米原市は、盛んに動いていなかったか。浅井・西浅井等…。湖北の動きは何かあるか。

【委員】

○長浜市が窓口になって出前講座等はしているが、今までそこに事業者協議会が一緒になって動くということはない。今後、市町の方に中学校から申し込みがあつて、事業者協議会にお声をいただいたときに、どう動いたらいいのかというのは、湖北の方でもしっかりと詰めておかないといけないと思っている。

○アンバサダーを活用するのであれば、来年度の事務局の滋老協に相談となるのだろうが、自分たちで会員の事業者に声かけてお願いするということであれば、事業者協議会として受け、段取りすればいいと思う。アンバサダーを積極的に活用していった方がいいのか、それとも、それぞれの協議会でやっていくスタイルなのか、そこをはっきりした方がいい。どちらでもいいのか、せっかくなのでアンバサダーを活用してくださいということなのか、各協議会で情報統一してもらいたい。今まで湖北は事業者協議会としてはノータッチだった。

【部会長】

○アンバサダーの活用について、積極的にすべきなのかどうか、アンバサダー自体は多分、中学校は知らないところの方が多いので宣伝も大事である。市町を動かすということであれば、市町に相談に行く中学校が増えてくると、今度は、市町とどのように連携していくのか、その辺も大切になっていくのかなという気がする。滋老協で、現在中学校の出前講座の話し合いをしてないと思うが、今後、滋老協で1回考えてみるのはどうか。

【委員】

○重要なのは、市町が保険者として積極的に関わることだと思っている。私の所属する東近江市でも介護施設・事業所がかなり困っている状況があり、この人材確保に対する意識を変えるため、もっと市町と私達が喋らないといけないという思いはある。今回のことで、団体・団体になってしまうよりは、もう少し市町に関わってもらう前提は崩さない方がいいと思うので、滋老協が出前講座に対してもう少し俯瞰して見てる感じで、私的にはいいのかなとは思っている。まだ整理しきれてないが。

【オブザーバー草津市】

- 事業者の団体の方で、人材確保、魅力発信についての課題の共有の仕方が違うのはあるだろうと思っている。湖南圏域の4市については滋賀県の補助をいただいて、人材確保の施策をやる段階で、南介協と4市の介護人材担当者が毎年定期的に話をして、その場で魅力発信の課題であったり、市の方から魅力発信ができていないという課題は言われるまで気付かない現状だった。ただ、話し合いの中で小・中学校にもしっかりと魅力を発信していきたいという声を聞いて、では何をしようかという形であった。
- 市はどちらかといえば課題については事業所団体の方からいただいて、それに対してどうしたことができるのかという形で施策を考えていくという立場で、人材確保が大切なことは当然わかっているが、どうしたらいいのかという事について、市町に具体的なアイディアは初めからはない。皆さんの声を聞かない限り、どこに何をしていくか、まずベクトルの方向を決められない状況ではある。
- 思ったのは市町の担当者と話し合う場合、介護保険事業計画でも人材確保については市町にプラットフォーム機能が求められていることが書かれているので、それをどのような形で持っているのか、自分のいる市町がそこを使って、まずは課題共有をから始める。魅力発信をしてほしい、市から(出前講座を)依頼をしてほしい、と言われてもポカンとするのではないか。この部会に出席している大津市とか長浜市とは違うが、そのような市町が多いと思っている。
- このままであれば、介護事業所は人材確保にもさらに困ってしまう。若年層について効果がすぐ出るものではないかもしれないけれど、地道にやっていかないといけない、というところを共有していく事を始めないと、いきなりマニュアルの流れに乗せるというのは厳しいと聞いていて思った。

【オブザーバー長浜市】

- 草津市が言っていたように、まだ漠然となんで魅力発信が必要なのかという課題の整理と認識を共通に持つということが大事だと同じく思っている。長浜市は人材の確保に対して、まず分母を増やしていく、啓発の取り組みっていうのがすごく重要だと思っている。中学校の出前授業等を積極的に取り組んでいきたい思いはあるが圏域市町と一緒に足並みを揃えてやっていこうと思うと、同じように課題認識を持ってもらえるにはどうしたらいいかというところで、県から働きかけてもらい、同じ認識のもと動いていけると良いと思う。

【オブザーバー大津市】

- 大津市では、市がまずは学校から申し込み等を受けている。そのやり方が一番やりやすいと思う。事務局を介護事業所にするよりは、まずは市町が受けた方がスムーズにいくのではないかな。加えて、市町の人材確保の部署と教育委員会が連携していないと、教育委員会が向こうを向いている中では、中学校もこちらを向いて貰えない、教育委員会との協力は絶対必要だと思う。
- 具体的には、人材確保の部署から、教育委員会の学校教育課に依頼し、学校教育課から各中学校に案内をし、学校教育課に申し込みがあり、人材確保の部署に連絡が来るという形になっており、そこから行ってもらう介護事業者を調整するという形を取っている。市が行うとしたら、市の負担が発生するかどうかという部分が重要で、負担がなければ、市のやる気の問題だけでできる印象を持った。アンバサダーに来ていただく場合は有償になるのか。

【事務局】

- アンバサダーが出前講座の講師になったときは、県の魅力発信事業でその部分を担うつもりで予算を組んでいる。アンバサダーの派遣に関しては、今のところ無償になる。

【オブザーバー大津市】

- 大津市では大津市社協に講師の選定依頼をし、学校と日程調整しながら講師を決める。たまに日程が施設と合わないことがあって、そういうときに、アンバサダーに頼めるのではないかな。無償で来て貰えるならば。そのような機会があったときは利用させていただきたいと思う。

【事務局】

○アンバサダーだけ呼んで、今すぐ出前講座ができる状態まで育っていない。長浜市ではアンバサダー1名を呼んでいただき、通常の講師陣に若手を混ぜるみたいなやり方でやってもらった。当面は、経験者が必要で期待に添えないかもしれない。

【会長】

○アンバサダーは自分たちがやっている活動を学校に行き発表みたいなことを、現在メインでやっている。例えば、出前講座でお題があって、何かしてもらいたいということには沿えない場合も出てくると思う。内容にもよるが、そのときに相手として先輩職員を連れて行く、別講師を立てていくとか、そういうことは考えていかないと、と思っている。実際ふく楽カフェ等、人材センターの方からも派遣を入れて貰っているが、そのときの状況はどうか。

【委員】

○今年度は、1名だけ、ふく楽カフェでご登壇いただき、自分のしてる仕事と福祉の魅力について喋って貰い、高校生と歳が近かったので、高校生からの受けは結構よかったと聞いている。ただ、講師としてやってもらう立場で、どう呼ぶのかとなったときは、魅力発信の部分で喋って貰うということで来年度も引き続き声掛けができる場面があればさせていただこうかなと思う。

【委員】

○今、聞いていて二つのことを思った。一つはこの出前講座を今後何年間やっていくのか、それから結果として何を実現するのか、目指すのかという目標の設定である。設定しつつ共有するということが必要ではないのかと、斜め上から見ていて感じる感じで申し訳ないが、そんなふうにした。

○もう一つは、この資料1にスケジュールが出ているが、このようにスケジュールは時間軸で一方向に流れるわけだが、このようなものではなく、やりたい人・やってほしい人はどこからいつ現れるのかが、まだはっきりしないわけだから、例えば現場の先生が出てきたり、喋りたい人の側から出てきたりとか、行政から出てきたりとか、それぞれ色々な部署とか場面から話が持ち上がってくるのだらうなと思った。

○どういふところから話が持ち上がったときには、こうするというようなフローチャート、情報の流れと、それから指示命令の流れをフローチャートとして可視化するというのをあらかじめしておけば、そうすると、こういう場合は、こういうふうに流れるんだなというところが見えるのではないのかなと思った。

○事務局あるいは医療福祉推進課あたりが、このフローチャートの原案を作ってそれを叩くという作業をやる生産的ではないかと思った。

○話は戻るが、目標については、例えば、そうやってフローチャートを動かしていくと、どういう先生が熱心か、が見えてくる。中高の先生は県内を異動で動くと思うのでその先生を追っかけていけば、ホットスポットが見えるようになる。そのように力になってくれそうな人脈作りをしていくということを目標に据えてみたら面白いのではないかと思った。

【部会長】

○先生のご助言も参考にしながら、今後まだまだ詰めていかないとと思う。県の方とも調整しながら魅力発信を受ける滋老協も一緒になって考えていくようにしないといけない。せっかくこういう事業を進めようとしている中で、尻すぼみになって消えていくことがないようにと思う。

2. 議題（2）令和6年度介護のしごと魅力発信事業について

※資料2によりP.1～P.4 補助事業の事務局 介護福祉士会から説明

【部会長】

○細かい実績を数字で出していただいてありがたく思う。この業界的にこの数字をどのように分析し考えていくのかを苦手としていると思う。実績をどのように生かしていくのかというのもまた得意としない分野の業界かと思う。

【委員】

○色々大変な中、しがけあフェスタの実施であったり、SNS でもいろいろ発信をして、結果的に見ると、ちょっと下がった部分が昨年度よりはあったのかもしれないが、全体的に見ると大きく下がってるわけではなく、魅力発信自体が、すぐ効果が出るものでないと思うので引き続きやっていかないといけないと思う。

○魅力発信自体は最初、若者をターゲットにしていこうというところから始まっているので若いアンバサダーに入って貰ったことにより、少しでも変化があるのではないかと見れた。予算も限られた中でいろいろ動いて貰い大変ご苦労があったと思う。その部分は本当にありがたいと思う。これを踏まえて、どういう形になるかはわからないが来年度から滋老協を中心に、こちらの方を引き継ぐ部分は引き継ぎ、パワーアップしていく分はパワーアップしていければと思った。

【委員】

○事業自体はすごく充実してきたと思っている。学生もこういう事業に参加させていただくことで、少し社会が知れるという意味ではすごく良い機会になるなどと思っている。今後ともまた協力をさせていただきたいと思う。よろしく願いたい。

【部会長】

○次年度も学生プロジェクトを継続してする事等は考えている。よろしく願いたい。

【委員】

○彦根で2年目ということで、ビバシティーもリニューアル後ということで、来場者が多かった。当日雨で、他の行事ごととか、外出控えて室内のお買い物に来られることも多かった。またお米のイベントやっていて、近くには西川貴教さんが来ていたという話だったので良かったかなと思う。

○やっぱりこういった専門の事業者に関わっていただくのは、我々素人よりもしっかりと分析やイベントの企画運営して貰えるのでありがたいとは思いますが、次年度またそのあたりを皆さんと一緒に検討していきたいと思う。継続してしっかりとやっていけたらと思った。

【副部会長】

○当日、別の用事があり午後から参加したが、私達はブースを出展して本当に多くの皆さんご参加いただいて、とてもよかった。ビバシティーで家族も参加していただきやすく、子供から大人まで参加いただき、本当にイベントとしてもたくさん色々な方が寄っていただけのような雰囲気になってとてもよかったと感じた。こんな形で、しがけあがもっともっと周知してもらえるような感じになればと思っている。

【委員】

○自分も1回目から参加して、内容的にも楽しくなってきたと感じる。人材センターとしては相談だけのブースなので、あまりお客さんが来てはもらえないが、来年度何か変わったことができたかなと思う。

【委員】

○しがけあフェスタに参加して、介護関係者の実際に働いている職員に対するイメージを持ってもらうことは結

構大事だと思った。こういう人たちが介護現場で働いてるんだと、もちろんプラスの意味合いで。もう1つは、色々な団体が参画してのフェスタで、オンラインの打合せなので、事前にどうしても全体的な横の繋がりがりというか実際の顔が見える関係がどうしても作りづらい。オール滋賀というか、横のつながりが強くなるともっと盛り上がると思った。

- 次年度滋老協が事務局を預かる立場で、業者に任せないといけない部分が、今後どうなるか別としてあるが、部会長が言われたように、数字の意味を、事業を実施する事務局はきっちり押さえないといけないと思った。任せっきりになってしまうと逆に生かせないと思った。専門性がある部分であっても、やっぱりそこを任せてしまっては、逆に良くないと思った。
- かなり幅が広がってくる中で、介護福祉会も言っていたが私達も本業はあるので、その中でどうやって向き合っていくべきかきっちり考えないと、会員の皆さんに協力していただく声掛けの中でも工夫しないといけないかなと合わせて思った。

【委員】

- 数字をしっかりと読み込めてないが、ファインディングス 1(P.63)で就労移行の変化について、しがけあを認知している方の中で就労意向の変化が起こった人が73%、全体だと35%、ということで、ここが、しがけあ認知というものと就労意向を持つということの間に、関係性があることが読み取れると思った。従って、ここに出てくる、「しがけあを認知して、就労意向の変化が起こった」皆さまの実際の行動とは、つまり検索するとかという行動ではなく、その下のグラフは意識行動喚起となっているが、実際に現場に行ってみるとか、さらには就職活動してみるとかの行動に結びつけることの、何か手立てやあるいは作戦戦略、ここの構築があるといい。
- 具体的に言えば、しがけあを認知して就労意向を持ったという人達を最終的には固有名詞付きでフォローできたらいいだろうと思った。手立ての構築というのは簡単なことではないが、道具だけとしては世の中にあるので、うまくできないものかなと思った。
- 今回強調されていた、全国の滋賀県出身者向けの情報発信というところは面白い視点だなと思った。詳しく見たところ、プレスリリースをそのまま転載されている全国の何とか経済新聞というオンラインで発行されているメディアで、全国で一つのプラットフォームで100を超える媒体が同時並行で発行されるが、この媒体の力というのは、現場の中身を知っているが故の話で、この何とか経済新聞というのは、この媒体そのものに広告を載せて金を稼ぐというタイプのビジネスではなく、それを運営している事業者やそれぞれ地域に根ざした広告会社やマーケティング会社や人材派遣会社、そういった企業が社内の人材育成のためにやっている。ちょっと特殊なメディアの事業形態だけれども、社内の人材育成のために、その地域を歩かせるっていうことをさせ、そのためのツールとして経済新聞と名乗り、取材に行かせる事をしている。
- 専門的な話で恐縮だが、何を言いたいかというと、このプレスリリースをそのまま横流しするだけでは、勿体なく、このプレスリリースをきっかけに取材活動を起こさせるってところまで進むことによって、次の展開が期待されているのではないかなと思った。
- 今回、このようなプレスリリースを流したが、あの見出しはそのまま転載されているという状態だが、これを単純に広告価値に換算するのは盛りすぎになるのでは、と思った。一方で、これをきっかけに何らかの取材活動を起こさせるというふうなプッシュで2発目3発目があると、物事が動くのではないかなと思った。少し説明が足りない部分があるが、背景を知るが故に、色々なことを考えた。

【部会長】

- この経済新聞というメディアを使って、例えばここから取材ということはインタビュー取らせてくださいというような依頼が来る場合もあるということか。

【委員】

- 滋賀から遠いところの事業者と発行者もいるわけだが、そこから先、具体的にどういう情報を出せば人が動くのか、今はパッと思い浮かばないが、1回見て流すだけではもったいない。要するに、記事やネタになるという

持っていく方、材料の提供、をやることが必要で、今回は、単にスルーして転載しただけなので、実はそれはもうこちらの思いと、ご覧になった方とのすれ違いというか、そこにすんなりと伝わってないのじゃないかなと思っている。

○認知経路で雑誌広告や記事が明らかに増えている。9.9%から19.2%ということで明らかに増えているので、無視できないというかポジティブに捉え、さらに工夫することができそうであるということで、平たい数字見ただけで何とも言えない。

【部会長】

○ここに次に、これからやっていくことのヒントがあるということだろうと思う。またこれも皆で考えていけたらと思う。

3. 議題（3）次年度の体制について

※資料3により事務局から説明

【委員】

○滋老協では、会長も含め、今までの取り組みを引き継ぐ動きを取っている時で、まだ整理しきれてないところがある。整理しての話で、今までして貰った部分は肯定するが、思い切った見直しをしたいという意見が出ている。

○いずれにしろ、各団体に参画して貰い、企画会議に出ている人も多いと思うので、ぜひお願いしたい。こういう場で言うことはないが、経営がこれだけ厳しくなっている現状の中で、魅力発信だけにすり替えられてしまうと、現状としては非常に厳しいというのが正直なところ。もう少し経営がまっとうにできる環境を作っていただかないと魅力発信だけでは到底最後のイメージにはいかないだろうと思う。

【委員】

○介護の魅力発信部会は、本当に当初から関わって、当初は、イベントを開催するために他府県に視察に行ったり、学生を呼んだ方がいって立命館大学から学生を呼び会議したり、関わらせて貰い、年々ステップアップではないが、色々できてきていると思っている。実際、就労に結びついているかとなると、難しい部分があり、委員が言ったようにイメージだけがアップしても、3Kの一つである給料が安いというところは就労に繋がらない大きなネックになっていると感じている。

○余談になるかもしれないが、今、外国人材の担当でマッチング事業をしていて、国によっては介護のイメージが悪くなっている国も正直あり、仕事がきつい、他の産業に比べて給料が安い、それを言われて日本に行きたいけど、介護の仕事を選ばれないという声を聞く。

○その中でこの介護の魅力発信は日本人だけではなく、これからは外国人にとっても必要性のある部分にはなってくと思う。4ページ目の、このイメージアップ完成期まで来れば、県だけじゃなく、この業界というか国全体がすごいことになると思う。何もしないより、間違っているけど何か取り組んでいくということに関わらせてもらいながら感じた。

○またこういう場を設けて、各福祉団体等が一つのものに対して協力し合っていくということは大事なことだと感じているので、来年度から滋老協の皆さんは仕事しながら大変なところにはなると思うが、頑張ってくださいねと思う。

【副部会長】

○魅力発信の細分化について、ケアマネジャーについては、直接いきなりなれないので、どう発信するのかと、いつも課題を持っているわけだが、まずは第一歩として介護職員になって貰い、そこからケアマネジャーにという一つの道として試打していかないと、ケアマネジャーになって貰える人はいないと思っている。

- 介護職員を増やしていく活動をこれからもして貰い、その中でケアマネジャーの仕事を発信していかないといけない。
- ケアマネジャーの仕事というと、介護だけでなく医療にも発信していかないといけないと感じているので、色々なところで活動いただく事はありがたいと思っている。積極的に関わりながら活動していきたいと思っている。

【委員】

- 人材センターは高校に対してのふく楽カフェで、今回の中学校向けの出前講座と一緒に、なかなか手挙げがない現状である。
- また、この1年間で相談件数が格段に減ってきている現状があり、あったとしても50代以上の相談が非常に顕著で、経験がなく研修も受けていない方の相談は結構ある。
- 学生に関しては今年度の2月に就職フェアを行ったが、近年では多数学生も来て貰えた。ただ3回生の方は夏に開催するときに卒業年次になり、また参加していただくと、学生もそういう道へ進んでくれるのかなと。社会福祉学科とかの学部だけではなかったのも、そういう方で介護もしくは福祉の世界に興味持っておられる学生がいるというのも行ってわかったのも、また色々なところで魅力発信し、介護人材が増やせれば、ケアマネになる方も増えていく可能性もあるので、トータルして協力できたらと思う。

【委員】

- 長年この事業に関わらせて貰い、未だに「もっと他の業種に人材取られないように、介護の仕事の魅力を発信すべきだ行政は」と言っている施設長や経営者等に「私達やっているのです」とその都度言っている。
- 介護の仕事はしんどいイメージを払拭しないと、と言っている方がまだまだいるので、この事業を広め、この福祉介護に関わっているみんなが介護の仕事の魅力を発信していかないと、まだまだ認知度低いなど、この1年間に何人かそういった方に会ったので、感じている。引き続き、魅力を発信している、しっかりやっている、協力してほしい、ということを仲間の人たちにも広げていけたらなと思っている。

【委員】

- 来年度、4月から学生が12人来るが、本当に振り向いてくれていない。そんな状況で大学自体もちょっと陰しく厳しい状況になり、よく閉鎖しないなあという気が毎回している。本当に30人定員がここ10年以上埋まらず、次年度も12人と思いがいろいろ手は尽くしているが、魅力発信という部分ではこれから先もやっていかないといけないということは十分思っている。しがけあでも学生プロジェクトに参加し、後に続いていく人をたくさん養成したいと思っているので、またよろしく願いしたい。

【部会長】

- 滋賀県からどんどん養成校がなくなっていく、どうなっていくのかと心配なところだが、びわこ学院はこの先もなくなることがないよう、どうぞよろしく願いしたい。

【委員】

- 事務局を担い、これまで県まかせで委員として参加しているだけだったが、主体的にやってみて、細かい部分が本当に大変だったというのはあるが、こうやって同じ業界というだけで一緒に力を合わせて物事を行っていくというのは、他の業界ではないことと思っている。そういうことも含め、もう少し若手メンバーが横の繋がりがあっていこうと感じながら一緒に楽しめるようなイベントにしていくことができれば本当にもっともっと魅力が発信できると思っている。本当に訳のわからない会議ばかりで大変申し訳なかった。皆さんにフォローいただきありがたと思う。

【部会長】

○びわこ学院の学生も増やすためには、それまでの小中高の取り組みも大切かなと思う。この部会が今年度で終わるということで市町からも一言ずつお願いしたい。

【オブザーバー大津市】

- この会議に何回か参加しいろいろ勉強させていただき、ありがたく思う。県の取り組みがこの会議でよくわかった。大津市でも魅力発信は第9期大津市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の中でも人材確保のための三つの柱の一つに据えた中で、絶対やっていけないといけないという思いの中でやっている。
- しがけあフェスタと同じようなおおつ介護フェスタもやっているが、今後も県と連携しながら色々な面で魅力が発信できる取り組みができればと思っている。
- 最後に一つ質問があるが、しがけあプロジェクトを自走化して1年目で、県の評価や課題があれば教えてほしい。

【事務局】

- まず県と業界皆さんとで課題がどこにあるのかをしっかりと共有しないといけない。効果測定した結果を踏まえて、来年度何をすべきかを、今後滋老協を中心に一緒に進めていけたらと思う。最終的に就職に結びつけるといったところでは魅力発信だけに頼るのではなくという話あったと思うが、介護・福祉人材センターや、国際介護・福祉人材センターも含め、一緒に連携した事業をやっていく必要があると考えている。

【オブザーバー草津市】

- 介護保険課なので保険者という立場であるが、保険者として、やはり介護サービスの供給量を確保することは責務なので、皆さんが今取り組んでいる人材確保や魅力発信というのも、そのもとになるものだというふうに非常に重要な課題だと思って認識している。
- そう言いながら、先ほど言ったように行政が介護事業所の生の声を聞ける場が少ないという現実もあり、このような会議に呼んでもらい、皆さんの意見を聞いたことは一つ良かったと思っている。
- 聞いていて思ったのが、草津市のある湖南圏域は特殊なのかと思っており、比較的、事業所とよく話す機会があるのかなと思った。話しているからこそ、お互いの人となりとか、課題や、どういう思いでいるのかがわかると思うので、そこは今後も湖南圏域の中で引き続き、良いところとして伸ばしていきたいと思った。
- 議題のルートの話で思っていたが、今日、言いたいことがちゃんと伝わる関係をどうして構築していくかという事がとても大事なことなんだと思っているので、他の圏域とかもそのようになっていたら悩まなくていいことも多いのかなと感じた。

【オブザーバー長浜市】

- 他市町の考え方や状況、また県の取り組み等を学ぶことができて、とても参考になった。人材確保の課題に対して、市町にできることとして魅力発信とか啓発は大事な部分だと認識しているので、現在実施しているものがさらに充実したものになるように今後も取り組んでいきたいと思う。

【委員】

- このような場に参画させてもらい、ありがたく思う。もちろん一市民としては、介護という事実と向き合っているわけだが、あるいは介護保険の被保険者としても関わっているわけだが、皆様方がこうして必死に努力されている現場を、垣間見せて貰えたということは、私にとって大変な財産になったように思う。
- 広報論、広報学、メディア論の専門家として招かれているわけだが、メディアの使い方という事について、皆様方が3年間の間にものすごく進化されたということ、目の当たりにさせて貰った。これもいい経験になったと思う一方でもっと上手に使えばいいのになということもたくさんあるが、そこはおいおい、そのときに応じてアドバースさせていただければと思っている。

- 皆様方の発言を聞いて、魅力発信は大事だが魅力の中身は十分にあるということはよくわかっているが、物事が動くための一部でしかなく、必要条件と十分条件と分けると、魅力発信というのは十分条件の部分であり、土台となる必要条件で、ここで働くということの経済的なメリットと社会的なメリットが伴わないことには、土台として確立されないことには、魅力というのは、この枠組みのものになってしまうということかなと思う。
- 政治マターでもあり、政治マターということは我々有権者全員の問題でもあるが、介護専門職の皆様方を初めとして、福祉専門職、あるいは子育てに関わるあらゆる職業の待遇改善というもの、本気でやっていかないとまずいということが、改めて思われる。待遇改善というときに経済的な待遇改善はおそらく今の倍ぐらいに増やさないことには、人材が確保し続けられないということにあるんだろうと思っている。それぐらいの見積もりをしておくべきだと思う。
- それに加え、その仕事の社会的な価値や携わる皆さん方の尊厳をきちっと改善していくという施策が必要で、これは社会全体の問題なので、簡単に何かインプットしたら変わるとそんな簡単なものではないが、財政はインプットすれば明らかに出てくるが、その社会の受け止め方を大きく改善していく必要があると思う。
- 私はずっと福島あの原発事故以降の地域の復興の動きに関わってきているが、あのような大災害が起こった後に何が起こったのかというと、自衛官や、警察官などの仕事に就きたいという若者がたくさん出てきた。社会全体でも、自衛隊さんみたいな言い方によって変わったわけだが、もちろん福島は元々自衛隊の存在感の大きいところであるが、そういった危機的なことが突然に起こったときに、それを救ってくれる誰かがいるということ、実際に救ってくれる消防士、海上保安官そういった方々に対して、皆さんが大変な尊敬を感じるわけである。
- 一方でこの福祉の問題しかり、子育ての問題しかり、これもじわじわもっと大きなカタストロフが迫っている。実は地震よりも、より大きなカタストロフが待っている。そういったことに直接携わっている皆様方の尊厳や承認欲求を満たすということを、市民全体が受け止められるような社会的行動が必要なのだろうなと思った。
- 最後に、滋賀県民の生活水準やリクリエーションの参加率、体を鍛える参加率などが、全国のトップクラスである。これから人材を確保していく中で、介護の魅力に加えて、滋賀の魅力を上手に発信していくといい人材がもっと集まるんじゃないかと思ったりもした。

【部会長】

- 出席いただいた委員に一言ずついただいた。この部会は、今年度で終了ということになるが、滋老協の企画会議の方とか、介護職員人材育成・確保対策連絡協議会とか、そちらの方でも魅力発信の方は今後も続いていくのでこれからもご協力のよろしくをお願いしたいと思う。

以 上